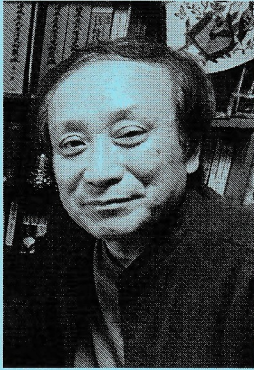


特別講演会（14:40-15:40）

題目：「和算発展の導火線に火をつけた『塵劫記』の謎と魅力」



講師：原嶋 茂 氏（機械 第二 53 年）

作家（筆名 鳴海風）

元 日本電装株式会社（現 株式会社デンソー）

要 旨：

江戸時代に日本で発展した独自の数学を和算（わさん）と呼ぶ。東北大学理学部にあった数学教室は、かつて和算研究のメッカであり、東北大学附属図書館の和算書の収蔵数は現在も日本のトップクラスである。『塵劫記（じんこうき）』は、1627 年に初版が出たとされる、吉田光由（よしだみつよし）が著したそろばんの教科書である。一般庶民が楽しく学べるネズミ算のような問題から、百五減算（不定方程式）といったレベルの高い問題も扱っている。江戸時代の多くの人々が苦も無く数の計算ができたのも、また関孝和（せきたかかず）のような、西洋にも劣らない優れた数学者を輩出できたのも、この『塵劫記』のおかげである。ところが、時代が古いだけに、『塵劫記』がどのようにして作られたのか、著者の吉田光由が、河川工事（たとえば京都の高瀬川を作った）で名高い角倉了以（すみのくらしょうい）の一族であることも関係して、謎が多く、今なお和算研究者が追究している。

今回は、和算の世界で有名な『塵劫記』の謎と魅力をたっぷり紹介したい。

※ 出欠の連絡を同封の葉書にて、2025年 5月 9日（金）までにご返信下さい。

連絡先：東北大学機械系同窓会事務局 武井康子（月・金 9:30～17:30、水 9:30～16:30）

Tel/Fax: 022-795-6926

e-mail: alumni.mech@grp.tohoku.ac.jp

<https://alumni.mech.tohoku.ac.jp/>